

令和 8 年度
教育行政 執行方針

奈井江町教育委員会

も く じ

はじめに.....	1
1. 奈井江を識り、世界を識る.....	2
2. 他人を知り、違いを認め、切磋琢磨する.....	3
3. 得意なこと、好きなことを生涯続ける.....	4

1 週間ほど前に冬期オリンピックが閉幕となりました。

鍛え抜かれた肉体から繰り出す技や戦略に富んだゲーム運びの妙など、躍動する選手たちの活躍に思いを馳せる一方で、次の、4 年後の準備を始める選手たちの姿を想像し、ふと思ったのです、目の前の課題を解決しながら、少し未来の奈井江の振興発展を考え、果敢にチャレンジしていかなければならない我々の仕事も同じなんだと。

教育委員会にとって令和 7 年度は、そんな年でありました。小学校での通級指導教室の開設や包括的性教育授業。中学生が少し先を行く人たちと将来のことを話し合う参加型の講座。本来は静謐な空間であるべき図書館で、子どもたちが少し騒ぎながら本を愉しむ日を創設するなど、今までタブーと思われてきた事業にも取り組んできました。

一方で、第 2 期 教育ビジョンの前期 4 カ年が最終年を迎え、次の 4 年間もしっかりと未来を見据えたものにするため、保護者や教育関係者に留まらない各界各層の町民で構成する検討委員会を開催し、これからの教育に期待すること、必要なことをテーマに多岐に亘る熱心な意見交換を行なって頂きました。

新年度から始まる後期 4 カ年も、奈井江の子ども、そして大人までもが、自分のありたい姿を達成するために生涯を通じて学び続けることができる教育環境を創るため、引き続き

“小さなまちから広がる未来”を基本理念に“子どもが学び、大人も学び、地域が育つまち”の実現のため、次の3つの重点目標の実現に努めていきます。

1. 奈井江を識り、世界を識る

子どもたちが将来、社会で自立していくためには、学問的知識やスキルの習得も必要ですが、自分で考え、行動できる「主体性」「課題解決能力」、そして一人ひとりが学校や地域のできごとを“自分ごと”として捉える「当事者意識」を育てることを目標にし、中学校で“自分で決められる生徒”育成のため、外部講師による「主体的、対話的な深い学び」をテーマとする特別授業を行います。

また、農商工の各事業所の協力による農業体験やインターンシップ、企業訪問などを継続し、子どもたちの郷土愛や将来の夢を育みます。

ギガスクールでは、生成AIなども含めたデジタル学習基盤を生かした情報収集と活用能力の育成を図り、公設塾ななかまでは昨年、中学生まで拡大した子どもたちの自学自習の定着を図ります。

2. 他者を知り、違いを認め、切磋琢磨する

今や政治や経済、文化、そして人々の生き方までもが多様化し、かつ虚実が混濁する社会となっています。このような社会構造の中で、今を生きる子どもたちが心身ともに成長していくためには、創造性や探求心、他者を尊重する力などを身に付けることが必要です。

小学校では、辞書の中から自分の知っている言葉をどんどん見つけていく「辞書引き学習法」に取り組み、子どもたちの無限に湧き出る 知りたいという気持ちを更に醸成させ、新しいことを知る喜びと自分だけでも答えを見つけ出す力を育みます。中学校では、チャレンジすることや失敗の捉え方を前向きなものとして考えることを通じて自分の未来像を描く、体験型のワークショップを実施します。

奈井江町は、子どもの権利を保障する町であり、大人たちは子どもの意見に耳を傾け、その実現に取り組まなければなりません。奈井江町の子どもの権利に関する条例が制定されて 20 数年が経過する中で、子どもの人数やギガスクールの導入など、子どもの学び、遊び、生活の仕方に大きな変化が生じています。はたして、この権利条例が今の子どもたちに合った規定となっているのかの検証が必要です。現在、行われている札幌大学による調査結果を待って、同条例に定めた理念や役割に係る見直しなどについて検討を行います。

包括的性教育に取り組んで3年目。初年度は、保護者向けの「親学セミナー」として実施し、2年目の昨年は、小学4年～中学3年生までを対象にしてきましたが、新年度からは、小中 全学年での授業を実施します。子どもたちの発達に合わせて、自分自身の心と身体を理解すること、守ること、そして、他者を尊重することの大切さを伝えていきます。

また、保護者や学校関係者、スポーツ協会や文化連盟のほか学校運営協議会など、関係機関の皆さんと共に部活動の地域移行や小中9年間の学び方について議論して行きます。

3. 得意なこと、好きなことを生涯続ける

子どもも大人も、町民の皆さんの人生が豊かなものとなるために様々な学びの機会を創設し、芸術やスポーツに触れる機会の提供を行います。

図書館の利用を促進するため、町の図書館では、閉館時間の延長や演奏会などを企画し、くつろいで読書ができる空間づくりを行なうほか、小学校の休み時間での本の読み聞かせ会を増やします。

文化ホールでは、一般社団法人ないえ共奏ネットワークや地域おこし協力隊と共に様々なコンサートやイベントに取り組むなど、引き続き音楽や芸術に親しむ機会を提供します。

＊

以上が、第２期 教育ビジョンの後期がスタートする令和８年度に取り組む主要な教育施策です。

オリンピック選手と同様、１年１年を大切にしながら、４年後に行われる教育ビジョンの効果検証の際に町民の付託に応えられた となるよう５人の教育委員で議論を尽くしながら “子どもが学び、大人も学び、地域が育つまち” を実現して行きます。